子育ては、未来のまちづくり

坂井市長 一問十考（いちもんじゅっこう）

子育て政策を自身の重要な公約の一つとする坂井市長が、佐賀女子短大で保育士を養成する旭学園の内田理事長と、佐賀市の子育て環境について話した。

旭学園 **内田 信子** 理事長 × 佐賀市 **坂井 英隆** 市長

女性が多様な形で輝く時代

佐賀市は、暮らしやすく、子育てしやすいまち

坂井 昨年12月に第2子が生まれ、今は、3歳と0歳のパパとして子育て奮闘中です。東京から帰ってきて感じるのですが、佐賀市の子育て環境は、とても魅力的だと思います。地震などの災害が、比較的少ないですし、楽しい場所やイベントもたくさんあります。例えば、神野公園は、子どもからお年寄りまで、安心して楽しめる場所ですし、私が生まれた年に始まったバルーンフェスタは、私たちの財産であり、心奪われる自慢のイベントです。

内田 私は、佐賀生まれ、佐賀育ちです。世界や国内各地を旅しましたがこんなに安全で安心なまちは、他にないと思っています。また、近距離に生活に必要な機能がそろっていて、素晴らしい環境ですよ。佐賀市の子どものように自然の中で育つとSDGsも理解できる。地球人としての共通語を持てると思います。発想力も豊かになるはずです。また佐賀市では、生産者の顔が見える安全な食生活を送ることができるのも魅力です。学生の中には福岡で暮らしたいという子がいます。でも佐賀は、「生きがいを持って仕事をしながら、子育てしたり暮らしたりできるよ」「いざという時には、親など近くにいる人が手伝ってくれるよ」という体験談をすると、学生たちも納得してくれます。私自身佐賀で子育てして本当に良かったと思っていますので、こうした話をもっと多くの学生に伝えていきたいと思っています。

坂井 佐賀育ちで、東京にも住んだ経験がある者の一人として、私も、多くの人に佐賀市の良さを伝えたいと思います。佐賀市は、テレワーク環境が九州で一番整っているという評価を受けています。こうした環境を売りにして、企業の本社機能移転にも取り組みたいと思います。佐賀市で育った子どもが、そのまま佐賀市で働いて、またその子どもを育てて、という好循環が生まれ、子どもたちが未来を担っていく町になればと思います。

就職支援金は魅力的

内田 子育て支援の課題の一つが保育士不足です。その大きな原因が勤務時間にあります。保育園は、毎日11時間から12時間開けています。保育士の多くが自分も子育てをしているので、特に夕方の時間帯の保育士不足が深刻です。シフト勤務にすると教育の質の低下を招く恐れがあるという悩みもあります。

坂井 私は、昨年5月国交省を退職しまして、東京から帰ってきましたが、3歳になる息子の保育所が、なかなか見つからずに苦労しました。原因の一つに、保育士不足があることがわかりました。そこで、就任してすぐ、11月議会に保育士の就職支援金の予算を計上しました。また、今後佐賀市で働くことを選んでいただくためのインセンティブとして、佐賀市に住んでいただける方のための家賃補助を予定しています。

内田 今回、佐賀市が就職支援金を出していただけると聞いて、現場はとても喜んでいました。福岡で働きたいと思っている学生たちを思いとどまらせる、良いきっかけになればと期待しています。

小学校の教諭不足も深刻になっています。これは特別に支援を必要とする児童が増え、特別支援学級が増加しているからです。保育園でも同じ様なことが起きていて、これも保育士不足の要因の一つになっています。目が離せないですからね。特別に支援を必要とする子どもは、早く適切な対応をすることによって、その後の成長が変わってくるかもしれません。親御さんへの情報提供やケアも大事です。行政で、何らかの対応をお願いできないものかと思っています。

多様な子どもを多様なまま受け入れる

坂井 私も、これからは多様性の時代であると思っています。様々な障がいや個性、特性を持つ子どもたちを多様なまま受け入れる環境をつくっていくことが、これからの時代、不可欠だと思います。先日、小学校の特別支援学級を見てきましたが、多様な子どもたちとどう向き合えばよいのか、現場の先生方がとても工夫をされていると感じました。

内田 例えば、不登校児の場合、今だけ見てもよく分からないけれども、小さい時からの出来事を追うことで、兆候が見つかったりします。幼稚園や保育園と、その後の学校教育がしっかりと連携できるような組織、例えば佐賀市立の幼児教育センターみたいなものができてほしいと思います。

（左面へ続く）

子どもたちが地域の担い手に

坂井 幼・保・小連携について、佐賀市では、「えがお　わくわく」という、学びの接続期プログラムに、2005年から取り組んでいます。この取り組みが評価されて、2007年には、法政大学地域政策研究賞奨励賞を受賞しました。

内田 佐賀市のこのプログラムは、とても素晴らしい取り組みだと思います。もっとPRして、市民の皆さんにも知っていただくべきですね。

女性活躍で「ワクワク」するまちに

坂井 女性が生き生きとしているまちは、まちも元気だと思います。本来の女性活躍は、男性社会に女性を合わせることではありません。これからは、女性が多様な形で輝く時代です。いろんな地域の活動などで、女性の視点も必要です。女性の活躍は、佐賀市のまちづくりに必要不可欠だと思います。子育て支援を含めた女性活躍のための環境整備に力を入れていきます。

内田 佐賀城下ひなまつりに協賛する形で行っている「ハンドメイドフェア、さが・ひな市」を11年前に立ち上げました。自宅で布製品などを手作りしていた女性たちから、販売する機会がないと相談をうけたのが始まりです。運営側は当初、私も含め女性3人でした。今では仲間が増え、九州でも有名なハンドメイドフェアになりました。自分が欲しいものを作って売るという「女性の視点」が2日間で4万6千人のお客さんが訪れるにぎわいを生み、経済効果につながっています。

坂井 私もハンドメイドのグッズを見るのは好きなので、よく家族で行きます。冒頭申し上げたように、佐賀市は住みやすいし、食も自然も豊富です。そんな中に、ワクワクするような非日常の体験というのをどんどん増やしていきたいと思います。ひな市は、まさにそういうイベントだと思います。

内田 女性のネットワークを生かすことは大切です。今の女性たちの多くがSNSを利用しています。行政も、もっとSNSを活用することで、女性サポーターとつながることができると思います。

坂井 魅力的な情報発信に女性の視点は大切だと思います。それからもう一つ大事なのが、ワークライフバランスです。子育て中はやることがたくさんあります。男女に関係なく子育てに参加することが大切です。私も市長に就任したばかりだったので悩みましたが、育児を自分自身が体験して課題を見つけ、政策に生かすことが大切だと思って育休を取らせていただきました。感じたのは「育休」ではなく、「育訓」だということ。ミルクとかおむつ替えとか、本当にやることが多くて、日々育児の訓練・修業中といった感じですが、子育てと仕事の両立をぜひ果たしたいと思います。

内田 「僕はお父さんなんだ。子育ての当事者なんだ」と思えば、育児や家事に自然と手が出るでしょう。家庭も世の中も、変わっていくと思います。

子育ては、地域全体で

内田 教育は、時間もお金もかかるとよく言われますが、20年もするとその子どもたちは、立派な地域の担い手になってくれます。地域のみんなで愛情をもって育てると、地域のことを大事に思ってくれる人が育つと思います。子育ては、まち育てであり、まちづくりではないでしょうか。

地域に根を張り、地域と共に生きていくのが大学だと思っていますので、子育てを含めて、佐賀市のまちづくりに、できる限りの協力をしたいと思っています。

坂井 ありがとうございます。子育ての支援は、行政だけでできるものではなく、大学がお持ちのノウハウや知見をいただけると幸いです。

佐賀市は、子どもへのまなざし運動を展開しています。子どもは地域社会で育てるものだと考えています。私は、働く場所を誘致したりテレワーク環境を整備するなど直接的な子育て支援だけではなく、未来のまちづくりをする気持ちで子育て政策に取り組んでいきたいと思っています。

市民がつくる「さが・ひな市」

女性が活躍できる場を

新型コロナ感染対策を実施しながら行った昨年のひな市

昨年の豪雨災害の被害が大きかった大町町で行った炊き出しの支援風景

佐賀県内外のハンドメイド作家が作品を持ち寄る「さが・ひな市」は、佐賀市民有志を中心とした実行委員会が実施し、今年で11年目になります。

保育士をしていた実行委代表の江島由紀子さんが中心となって2011年の東日本大震災後、被災地に園児の母親が手作りしたハンカチを届けたことが元々のきっかけ。女性が社会とつながり自信を持って活躍できる場所をつくろうと現旭学園理事長の内田さんを含む女性3人で立ち上げました。

2012年の初回は約1万人だった来場者ですが、2018年には約4万6000人が訪れるなど、九州でも有数のイベントになりました。スタッフは今では約20人に増えました。おもてなしの心をモットーに、スタッフはテントを見回り、来場者を手厚く補助し、出店者からは「気持ちよく参加できる」と評判です。

被災地支援への気持ちは今も続いていて、熊本地震や佐賀豪雨の際は現地に赴き、炊き出しなどの支援を行いました。支援への参加を呼び掛ける際は、ひな市で培った強くて速い女性のネットワークが役に立ったそうです。

今年も新型コロナウイルス拡大防止に努めながら、3月12、13日に佐嘉神社西駐車場など3カ所で実施します。江島代表は「みなさんに手作りのあたたかさを伝えていきたい」と話しています。

子どもへのまなざし運動

日常の関わりが子どもの健やかな成長を促す

「子どもへのまなざし運動」の一環で、佐賀バルーナーズの選手たちと一緒にあいさつ運動を行う同運動のシンボルキャラクター「まなざし君」（右奥）

子どもの健やかな成長に、全ての大人が関心を持ち、主体的に関わるのが「子どもへのまなざし運動」です。佐賀市が市民総参加の市民運動として2008（平成20）年にスタートし、さまざまな啓発活動を地道に続けることで、自然な形で浸透しています。

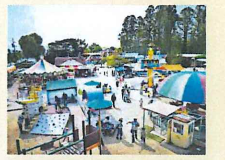
「佐賀市未来を託す子どもを育むための大人の役割に関する条例」（08年施行）に基づき、「子どもを育むことに対する役割と責任を自覚する」「子どもの声に耳を傾け、子どもの権利を尊重する」「子どもの手本となるよう、大人自身が模範を示す」の３項目を運動の理念としています。「家庭」「地域」「企業等」「学校等」を子どもを育む四つの場と位置付け、それぞれの大人の役割を定めています。

地域や学校、職場など、それぞれの立場で登下校時のあいさつや見守り、ボランティアといった活動が行われ、毎年２月に開く「まなざし推進大会」（本年度はコロナ禍で中止）では優秀な活動を行っている個人・団体を「まなざしキラリ賞」として表彰しています。

同運動を担当する市社会教育課は「特別に難しいことではなく、家庭や地域などで日常から行っている子どもたちへの関わりが、子どもの成長につながっていることを理解してもらい、既に多くの方が『子どもへのまなざし運動』を実践していることを知らせていきたい」と話しています。

子どもが安心して遊べる場所

神野公園の魅力向上へ



開園して60年近くなりレトロな雰囲気が人気のこども遊園地＝神野公園

佐賀市が管理・運営する子どもが遊べる公園として神野公園、多布施川河畔公園（水歴史広場）、干潟よか公園（東与賀町）などが挙げられます。特に、1923（大正12）年に鍋島家から佐賀市に寄贈された神野公園は、市内中心部に5.4㌶の広さを誇り佐賀市を代表する歴史ある公園として、長らく佐賀市民に親しまれています。

公園には藩主の茶室を復元した「隔林亭」や小動物園、トンボ池などがあり、子どもたちが歴史や自然に触れあうには格好の場所と言えます。

公園の南側にある「こども遊園地」はジェットコースターやメリーゴーラウンドなど子どもが大好きな遊具が15種類近くあり、休日になると親子連れを中心に多くの市民が足を運びます。遊園地は佐賀市観光協会が所有・運営し、しっかりと遊具の保守点検にあたっています。

ただ、開園して60年近くなり施設や遊具の老朽化が課題になっています。佐賀市では2013（平成25）年から神野公園全体のあり方を考える検討会を重ねています。2020（令和2）年には、神野公園に関する市民の意識調査を実施しました。「芝生広場がほしい」「遊園地を充実してほしい」といった多くの意見が寄せられました。新年度からは専門家や有識者による検討会を開催する予定で、神野公園の新しい姿が模索されています。

佐賀市が取り組む子育て支援事業

就職支援金など手厚い待遇改善策実施へ

保育士のイメージアップを図り、佐賀市営バスに施されたラッピングバス

保育士の仕事に興味があったり、ブランクがある人を対象にした研修会も開かれている

佐賀市の待機児童数は、令和３年度当初で２人（前年度当初24人）、今年２月時点で３人（前年度末110人）であり、年々減少傾向です。しかし、入所を希望する園を限定しているため待機になっている児童の数は、２月時点では233人と、依然として解消されない状況です。このため、佐賀市では、施設整備の補助や、幼稚園から認定こども園への移行の推進などにより、保育定員の増加を図ることで待機児童の解消に努めてきました。

また、保育定員の増加と併せ、そこで働く保育士不足への対応が喫緊の課題となっています。これまで佐賀市では、保育士不足への対応策として、国や県の取り組みと合わせ、保育補助者や事務補助者の雇い上げ事業、ICT推進事業等の実施により、保育士の事務負担の軽減を図る取り組みや、保育士の仕事に興味がある方や経験があってもブランクがある方などを対象とした「チャレンジ研修会」の実施、保育士のイメージアップを図る事業など、さまざまな取り組みを行ってきました。

さらなる新たな取り組みとして、保育士の就職支援を目的に、佐賀市で保育士として働く人を対象に「佐賀市保育士就職支援金」として１人10万円を給付します。県外などからの就職で、アパートなどを借りる保育士に対しても、毎月一定額を助成することを検討しています。

これからも、佐賀市は保育士の働きやすい環境の整備を進めていきます。

問い合わせ先／佐賀市保育幼稚園課 ☎0952(40)7290

本音で語る佐賀市の今と未来